

令和元年度第1回札幌市はつらつシニアサポート事業評価委員会 会議録

- 1 日時 令和元年6月19日（水）午前9時00分～11時00分
- 2 場所 札幌市役所本庁舎 地下1階4号会議室
- 3 議題
 - (1) 平成30年度シニアチャレンジ事業報告
 - (2) 令和元年度シニアチャレンジ事業申請案件の審査
 - (3) 令和元年度シニアサロンモデル事業申請案件の審査（平成30年度実績報告を含む。）
- 4 出席者
 - (1) 委員（五十音順）
 - 菅野 龍夫
 - 中田 雅美
 - 中路 康夫
 - 畑 亮輔
 - 福田 菜々
 - (2) 事務局
 - 保健福祉局高齢保健福祉部長 佐々木
 - 保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課長 足立
 - 保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課生きがい支援担当係長 藤谷
 - 保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課高齢福祉係 鈴木
- 5 議事の概要
 - (1) 平成30年度シニアチャレンジ事業報告
事務局から、平成30年度にシニアチャレンジ事業補助金を交付した「シニアサロンおいでおいで（事業名：早坂コミュニティファーム“あえる”）」及び「一般社団法人健康生きがいづくりアドバイザー北海道協議会（事業名：人生100年時代に向けて健康寿命を延ばそう）」の事業結果について報告を行った。
 - (2) 令和元年度シニアチャレンジ事業申請案件の審査
事務局から1件の申請案件の概要について説明し、団体からプレゼンテーションを受けるとともに、ヒアリングを行った。審議を行った結

果、補助金交付が適当であるとの評価がなされた。

- 交付決定団体「シニアサロン晴れプラス（事業名：音楽と体操で嚙下機能改善(仮称)）」についての主な質疑・評価内容は以下のとおり。
 - （委員）口や喉だけではなく体全体を動かして筋力を向上させるということが必要と思う。
 - ⇒（団体）スポーツインストラクターの経験がある者がおり、背筋や腹筋も鍛えるようなプログラムにしたいと考えている。
 - （委員）会場の町内会館は3月まで借りることができる状態か。また、シニアサロンの運営もあるため、事業体制に支障をきたすことはないか。
 - ⇒（団体）会場は3月まで借りる約束をしている。シニアサロンで行っていた活動の一部が、別の場所での参加者独自の活動となったため、チャレンジ事業を担える体制となっている。
 - （委員）月1回の活動で、嚙下機能の改善や体を動かせるようになるのか疑問である。また、1回当たり5人の参加は少なく感じる。ニーズに合わせて地域の方に広く参加してもらうことは考えているか。
 - ⇒（団体）予算の関係で、先生を招くことは月1回が限度であるが、自主練習のような形での開催も考えている。また、当初、十分なケアができるように5人に設定したが、音楽の先生、理学療法士に相談したところ、人数が多くなっても対応が可能と言われているので、様子をみながら徐々に増やしていきたいと考えている。
 - （委員）シニアサロンでも同じ内容の活動をし、一体感がある活動とすることが望ましい。
 - （委員）シニアサロンで既に行っている活動の中からニーズを把握し、新しい活動へ広げようとしていることが評価できる。
 - （委員）専門職による訓練と自主練習が融合されたものであり、自助の醸成がされる取組であると言え、高く評価できる。

(3) 令和元年度シニアサロンモデル事業申請案件の審査

事務局から1件の継続申請案件について、平成30年度の事業報告及び令和元年度申請内容の説明を行い、審議の結果、補助金交付が適当であるとの評価がなされた。

- 交付決定団体「特定非営利活動法人たすけ愛ふくろう清田」（平成29年度から継続申請）についての主な評価内容は以下のとおり。
 - （委員）NPO法人としては、子ども食堂を開催するなどして努力していると感じる。
 - （委員）補助の継続自体は問題ないが、利用者数をもう少し増やしていく必要がある。現在の利用者数では事業運営継続の懸念がある。